# 美展

染織美の芸術性を追求しつづける

# 「美展」

昭和二年、激動の昭和史とともに産声をあげた染織美術展覧会、略称「美展」。

その誕生から一貫して染織技術の保存継承のみならず、きものの美を芸術の域にまで高めることを目指してまいりました。

その試みのため、当世一流の作家、工房、悉皆たちによるきもの創作グループが結成されました。それが美展の礎となり、その志は脈々と受け継がれ、伝統に培われた文化と職人技とが互いに競い合い、そして融合し、きものを芳醇な芸術として昇華してまいりました。斯界最高峰としての地位を示すがごとく、その高い芸術性に人間国宝の称号を得た上野為二・木村雨山・羽田登喜男をはじめとして、きら星のごとく多くの優れた作家たちを美展から輩出しております。

第百六十四回美展におきましては、「開花 ～変わりゆく世界のなかで～」をテーマに美展の作家たちが新たに挑戦いたします。染織作家たちが描く美展の世界を、ひとときお楽しみください。

1991年 第124回 美展作品

1995年 第131回 美展作品

1997年 第136回 美展作品

時代衣裳 特別展示

## 衣裳コレクション展 ～東西競演～

所蔵：丸紅株式会社

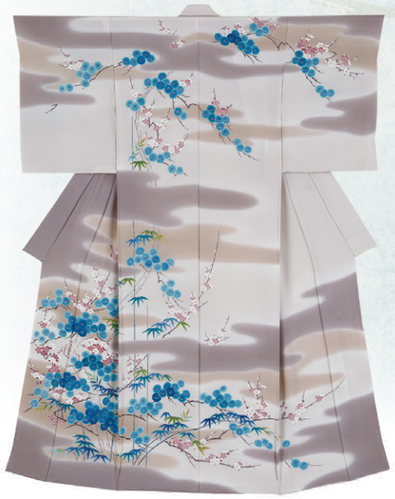
天下分け目の関ヶ原合戦に参戦した武将たち。その後、大名家伝来となった時代衣裳コレクションを、東と西に分けて展示いたします。美しく、色鮮やかな衣裳の競演をご高覧ください。

▲「鶸色縮緬地謡曲模様小袖」
鍋島家家中・江戸時代前期

# 「染の美」

## 京友禅 上野家

豪華で様々な染織技法を駆使した京友禅の中で、
友禅の美しさのみに拘り、独自の世界を築き上げてきた
京友禅の名門「上野家」。



## 加賀友禅

江戸時代中期から金沢で独自の発展を遂げた加賀友禅。
落ち着いた色と精緻な柄を特徴としています。
また、作家の感性や創造性を表現した作品も
数多く作り上げられています。

# 「織の美」

## 結城紬

本場結城紬が国の重要無形文化財に
指定されて60年を経た今、
ますますその価値と魅力は
増しています。

## 紋屋井関

井関家は長い歴史をもち、
公家や将軍・大名たちの装束を織る「御寮織物司」として
宮廷文化を彩る逸品を織り続けてきました。
その歴史が育んだ優れた技術と意匠の集大成を、
是非ご高覧ください。

## すくい織

一本の木や草花から色をいただき、
それぞれの色を大切に織り込んでいく…
「すくい織」の手織作家・安藤正夫による
感性あふれる作品です。

# あかね会

## あかね会とは

「あかね会」とは染織界に新たな意匠を求め、丸紅が結成した芸術家の会です。

『美展』の草創期にあたる昭和の初め、染織界に意匠の革新を図る目的で、竹内栖鳳・堂本印象・伊東深水など日本画を代表する画家をはじめ幅広い芸術家に「染織のための」図案を依頼しました。

その描かれた図案の数々を「草の葉会」と称して発表、これをもとに創作した染織展を東京・日本橋の白木屋で開催したところ、当時の染織界に大反響を呼び、これが京都における『美展』の礎となりました。

後に「草の葉会」は竹久夢二によって「あかね会」と名付けられ、最終的には約七十名もの有名芸術家たちが参加しています。

▲ 寺谷昇・作「水辺」

▲ 島田佳矣
昭和6年

▲ 鹿島英二「蝋纈草花文」
昭和3年

▲ 関谷幸英・作「織円都 華樹紋様」

# 「技の美」

## 有松絞り　竹田庄九郎

2019年には「日本遺産」に認定された「有松絞り」。
400年以上の歴史を持つ
精緻な伝統の手技をご高覧ください。

## 友禅楊子糊

やさしく、力強く…
自然な動きで楊子を操りながら
生地に糊を置いていく。
親子二代が情熱をかけて復興した
江戸時代の至宝が、
三代目に受け継がれていきます。

# Furisode
## 振袖

### お嬢様の記念日を
### 彩る振袖

伝統の美しさを求め、
大切に仕上げられた逸品振袖からブランド振袖まで、
一堂に取り揃えております。

# 「装いの美」

## sense + sense

「きもの」を楽しむ。モダンで知的な「きもの」スタイル。
衿を正し、背筋を伸ばして楚々と歩く。
モダンな空間にもすっと溶け込める
シンプルでひかえめ、身近なお洒落着に。
素材感・色合わせで季節を取り入れ、
日常の中に「和」を楽しんでほしい。
そんな「きもの」と「おび」を提案いたします。

sense + sense

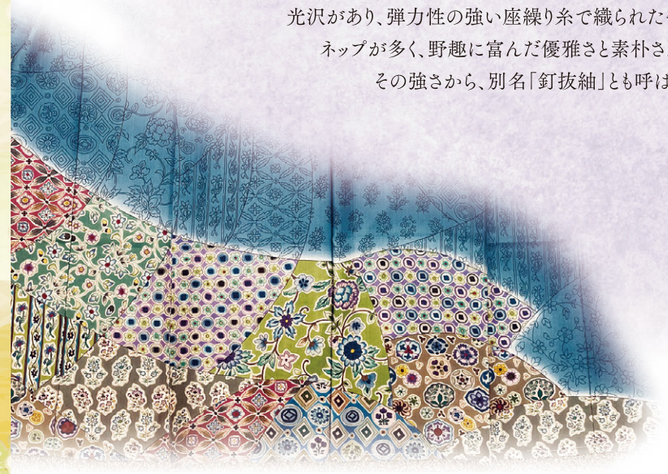
## Flame Splash

京都丸紅株式会社
×
桝屋高尾
Flame Splash

京都・西陣の町で
“時に耐える美しさ”をもつ織物を
生み出すという理念を
創業の原点とする
「桝屋高尾」と取り組んだ
「Flame Splash」は
火と水をテーマにした新しい出発です。

## 牛首紬

光沢があり、弾力性の強い座繰り糸で織られた牛首紬。
ネップが多く、野趣に富んだ優雅さと素朴さが特徴。
その強さから、別名「釘抜紬」とも呼ばれます。



## 京染 泉六

### 時代を渡る　更紗の美

原点にかえる　美しい手しごと
人には、それぞれに美しき心の想い色がある
色に恋して、色を愛して美しき色に染め上げる

第164回

# 美展

趣意

## 「開花 ～変わりゆく世界のなかで～」

私たちを取り巻く環境は大きく変化しています。「コロナ禍」が到来してから2年以上が過ぎ、その影響で人間同士の対面での会話や接触が制限され、これまでの働き方や、社会との向き合い方が見直されるようになりました。個人の価値観や生き方が尊重される一方で、価値観の多様化は、誰もが想像するような「正解」が形成されにくい状況を生み出しています。その中でも、人と対面で関わることや、家族と過ごす時間を大切にするようになったという声も多く聞かれます。着物についても、その「美」を体験することで心の豊かさを感受したいという人たちの声に耳を傾ける必要があると思います。

美展誕生当時から現代に至るまで、様々な流行を経ながらも、着物作家や職人の方々の、個性的かつ斬新な意匠を生み出す創作力が失われたことはありません。美展の理念に基づいた着物作りを追求することや、受け継いできた技法や技術を次の世代へ伝承することには大きな意義があると考えます。

また、先の見えない現代においてこそ、人と人とがつながり、晴れ晴れとした気持ちで着物を着装することに想いを馳せる人は少なくないでしょう。
再び、着物の「美」が、多くの人たちの心を躍らせ、日々の生活を彩ることを祈念し、趣意を「開花～変わりゆく世界のなかで～」といたします。

主催

京都丸紅株式会社
Kyoto Marubeni Co.,Ltd.

染織美術研究会